

第7回検討委員会事前意見照会に対する主なご意見と対応方針

番号	該当箇所	意見の内容	対応方針
1	第2章 4～8ページ	<p>社会の大潮流に関する整理で、全県版との違いが明確でなく、あえて地域版でも記載する必要があるのか（他地域と整合させる必要がある場合はこのままで構わない）。</p> <p>「現状・問題点」は全県版と共通していても、2050年に向けた方向性は各地域で異なる未来像を見据える必要があり、それが即ち本ビジョンの中身の部分のように思うため、ここで各項目に「2050年に向けて」という見出しで一般的な潮流が整理されることに違和感がある。</p> <p>「2050年に向けて」はP3冒頭にあるように、「こんな社会が到来すると予測され、阪神地域ではこの潮流をこんなチャンスと捉えます」というような表現にできないか。あるいは、全県版と重なる部分が多いのでもう少し全体的に軽量化してもよいかと思う。</p>	<p>地域ビジョンの策定にあたり、兵庫県の社会的潮流を踏まえる必要があるため、他地域のビジョンにも描写に加えられている。第2章リード文及び各項目の「2050年に向けて」のタイトルを変更する。</p>
2	第3章 9ページ	西暦を示すよう統一しないと、分かりにくい。	西暦表示に統一する。
3	第4章 17ページ	<p>前回よりもすっきりして、1→4が循環する図もうまく表現できている。</p> <p>ただ、基本理念ワードのすぐ下の図が過去の構造なのか、これからの理念も同じような構造で捉えているのか混同している。</p> <p>また、図の示し方も、「寛容な人」と「多様な移住者」が「阪神間モダニズム」を創ったような短絡的な理解を与えてしてしまい、表現として不適切。</p> <p>古くから住みやすい土地としての歴史の上に、寛容な風土や外部からの多様な文化の融合がなされ、結果として豊かな生業や環境共生が実現してきている…といったまとめは、前章（3章）の最後に記載するか、4章冒頭で簡潔に示し、だから阪神地域は「コ・クリエーション」なんだという示し方にするか悩ましいが、突き詰めると、過去もP16下図のような構造で新しいモノ・コトを生み出していたように思うので、あえて過去の図（上図）は必要ない。</p>	削除する。
4	第4章 17ページ	<p>読者がイメージしやすいよう補足的な用語を追記してはどうか。</p> <p>「コ・クリエーションが育む阪神地域」→「コ・クリエーション（共創）が育む阪神地域」</p>	<p>基本理念を「コ・クリエーション（共創）が育む阪神地域」としたうえで、コ・クリエーションの内容が明確になるように修正する。</p>
5	第4章 17ページ	<p>基本理念として初めて「コ・クリエーション」という言葉が出てくるが、前回の検討委員会でも散々議論になったところでもあり、県民にとっても聞き慣れない言葉であることから、「コ・クリエーション」の言葉の説明部分（ページ最後の一文）をもっと強調して記載すべきと考える。</p>	
6	第5章 39～40ページ	<p>県民の意見ですが、全て記載する必要があるのか。全部読む人はほぼいない。全て記載する必要がある場合は、カテゴリー化をして見出しをつける、重要な表現を太字にするなど、情報のメリハリが必要。</p> <p>また、記載されている事柄も「きっかけ」の中にもすぐできそうなことから、大いなる野望が含まれていたり、何を示している部分なのか、理解が難しい。「西宮、芦屋のスイーツを、地域の取り組みを掘り下げ、世界に発信する。」などは限定的すぎて、「こんなことに意識してみましよう。」と呼びかける内容としては相応しくない。</p> <p>たとえば、「みつめる」「交流する」「発信する」…などのカテゴリーとし、誰でもすぐに意識できそうな（共感できそうな）項目に絞ってあくまで「例」として記載するなど工夫が必要。</p>	県民の意見を削除する。
7	第5章 39～40ページ	まとめの内容に県民の意見は必要ないのでは。	
8	第5章 39～40ページ	<p>行政の書きぶりが他の主体よりも少なく、行政が果たすべき公的責任が見えない、協働参画を軸とするガバナンスを実現するとしても、行政は支援だけが役割ではない。1-2行加筆してはどうか。</p>	加筆する。

